

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
 領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
 評価用研究成果報告書

課題	「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとっての科学」の理論的実践的深化		
研究テーマ名	RRIの新展開のための理論的・実践的研究－教育・評価・政治性に注目して		
研究代表者	所属機関	大阪大学	
	部局	社会技術共創研究センター	
	役職	准教授	氏名 標葉隆馬
委託研究費	単位：千円		
平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度
2, 925	4, 973	4, 095	1, 170

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、研究成果やその波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

責任ある研究・イノベーション（Responsible Research and Innovation: RRI）」を巡る議論は、2010年以降、欧州を中心に急速に拡大しつつある。しかし、RRIの実践とはいかなる形で達成されるのかについては必ずしも明らかではない。本研究は、RRIをめぐる理論的考察と実践的な課題が交差する三つのテーマを設定しRRIを巡る実践的課題の抽出と理論枠組みの新しい展開を目指した。

①RRI教育に関する実践的研究（再生医療と市民教育における事例研究）

再生医療を事例としたRRI教育では、日本再生医療学会と関係の深い八代嘉美を中心として倫理的・法的・社会的課題（Ethical, Legal, and Social Issues: ELSI)の企画セッションを行うと共に、再生医療に関する市民参加型論点抽出ワークショップの実施、RRI教育ツールの作成、大学院教育プログラムとの連動を行った。

②RRIにおける評価指標研究

「科学技術と社会」の関係性を検討するための指標に関するボトムアップの議論の場を設計・実施することでRRI指標の形成とそのプロセスに関する研究を行う。また英国のMartin Bauer教授らと協働したRRIに関わる国際比較調査を行った。

③RRIの理論枠組みと政治性に関する研究

日本国内の学会におけるRRI関連議論の状況の分析を行うと共に、RRIの政治性に関わる事例研究として政策の現場におけるデュアルユース議論の分析、またその政治学的含意の検討を行った。またこれらの状況を整理しながら、これまでのELSI・市民参加（public engagement）・RRIといった関連テーマを概観する研究書を公刊し、そこで見いだされた課題を包括的に取り扱う科学技術ガバナンスという視点（責任ある科学技術ガバナンス）を提案した。

本研究の成果として、とりわけRRI指標に関する国際比較分析ならびに指標形成プロセスの国際査読誌掲載、これまでの関連議論や実践例を網羅した上で「責任ある科学技術ガバナンス」としての視点の提示を単著の書籍として刊行した点などが大きな成果と言える。これらの学術的成果に加えて、RRI教育ツール作成・活用による市民論点抽出とノウハウ蓄積、萌芽的科学技術分野との協働実践（再生医療・分子ロボティクス）、科学教育分野への知見適用などの効果も得られた。